

ご案内

多摩六都シネマ倶楽部(※1)プレゼンツ「めくるめく自主制作映画の楽しみ～上からみるか横からつくるか～」昼の部へのお誘い。

今企画は、西東京シネマ倶楽部協力のもと「西東京市民映画祭自主制作映画コンペティション(※2)」にご応募いただいた作品のうち惜しくもコンペに挙がらなかったものから、個人的主観、すなわち(俗に言う)独断と偏見だけを基準に「これは広くみんなに観てほしいな」と思った作品を時間が許す限り上映するものです。

またちょっとした縁から「セルビア映画祭※3」と連動し、セルビア映画祭2017にて上映した作品も今回上映させていただくことになりました。

映画は少なからずその国々の世情や時代を反映する側面があります。そこに映画の醍醐味があるとと言っても過言ではありません。2つの国の映画、しかもある種のインディペンデント性を持って制作された映画を同時に観ることは、みる側はもちろんつくる側にとっても非常に有意義だと考えます。今日は、下からみるひと、横からつくるひと、すべての映画を愛するひと皆で、めくるめく映画の時間を共有したいと思います。

※1 多摩六都シネマ倶楽部

西東京市が主催した「映画制作ワークショップ(2014年開催)、ドキュメンタリー映画制作ワークショップ(2015年開催)」に参加した受講生による映画制作サークル。

※2 西東京市民映画祭自主制作映画コンペティション

おなじみ「地元で感動!黄色の旗の映画祭」を合言葉に、こもれびホールで行う自主制作映画のコンペティション。西東京シネマ倶楽部が中心となり広く募集した自主制作映画の中からシネマ倶楽部員による予備審査、市内映画愛好家有志による市民審査を経てコンペ入選作を選定。

コンペ審査委員長には例年、映画監督を迎え(昨年は篠原哲雄監督)行う。この映画祭を足がかりに多くの映画クリエイターがプロへと育っており、昨年で16回目を迎えた老舗映画祭。

※3 セルビア映画祭

セルビアと日本の短編映画を上映するイベント。

「JSFF(=Japanese Short Film Festival)」と呼称し、昨年で4回目を数える。セルビア共和国は、旧ユーゴスラビアに属していた国。そのセルビアでは、日本文化を研究し紹介する活動を行っている団体「Sakurabana(サクラバナ)」があり毎年、首都ベオグラードの市民ホールを会場に「Japanizam」という日本の伝統文化からポップカルチャーの展示、ワークショップなどを行うイベントを開催している。その2014年のイベントに、二人の映画大好きセルビア青年が参入し日本映画を上映したことが始まり。

翌年(2015年)の第二回はベオグラードだけでなく東京でも同時期に上映会を開催し、日本だけでなくセルビア国内からも作品を公募して両国で上映するというスタイルとなった。セルビア国内で日本映画を紹介するというイベントから、今ではセルビア共和国と日本が映画によってコミュニケーションするという国際的なイベントとなっている。

